

主要科目の特徴（医学研究科修士課程）

科目名	特長
医科学概論Ⅰ（生化学・生理学）	医学の各分野を学習するために必要とされる基礎医科学的知識を得るため、生化学、分子生物学、生理学分野の基礎知識を得られるよう、糖代謝、脂質代謝、タンパク質・アミノ酸代謝、生体酸化、酵素、遺伝情報、分子生物学的手法、ビタミン、内分泌と自律神経、循環、呼吸、消化、排泄、中枢神経系の基本構造、感覚、運動などについて学習する。
医科学概論Ⅱ（人体機能構造学）	様々な分野に所属する大学院生が医科学の基礎を良く理解するために、本概論では人体（肉眼）解剖学と人体組織細胞学の講義を通して、基礎医科学、臨床医学を学んでいく上での基礎を身に付ける。
医科学研究方法論ⅠⅡ	現代の医学・生物学研究で実践されている様々な研究方法の基礎を学ぶ。本科目は研究基盤センターの研究室によって担当され、各々の研究室が二～四コマの授業を行う。一コマ目に講義で原理を理解し、二コマ目に演習を行う。
基礎疫学	疫学の原則と方法論の入門。疾病、傷害および死亡の分布ならびにそれぞれを規定する要因を学ぶとともに、社会医学および臨床疫学の文献を正しく読む力を身につけることで、疫学を公衆衛生の現場に応用する方法を学ぶ。
基礎生物統計学	統計の基本であるデータの要約の仕方（記述統計）を理解し、統計的推測、統計学的検定へと話を進める。臨床研究のデータ解析に必要な知識を中心とした講義内容であり、統計学の習得には、自ら計算して理解することが非常に重要であるので演習の時間を設けている。
産業環境保健学概論（環境保健・産業保健）	昨今の技術革新と時代の変化には目を見張るものがある。それに伴い人々を取り巻く環境も想像以上のスピードで変化している。人々を取り巻く環境とその健康影響について、過去から現在への状況とその予防を含む対策などについて学んでいく。
健康行動科学概論	行動科学理論に基づいた生活習慣の変容、健康増進活動などを導くための基本知識を学習する。本科目では、人の行動、行動の成り立ち、動機づけ、ストレス、生涯発達、対人コミュニケーション、及び婚姻状況や経済格差などの社会要因といった観点から、行動と心理について学習する。また、併せて、予防医学・社会医学の観点から、行動科学の意義について学ぶ。
医療保健福祉法・政策概論	厚生労働白書などを教科書として用いて、わが国の保健医療福祉制度、法律、政策について学ぶ。最新の政策について解説する。
医療倫理学	医療倫理学の知識が必要とされる領域は多岐にわたっている。本講義では、「医療倫理に関する国際規範とわが国の指針」から始まり、患者中心の医療となっている「医師患者関係」、診断治療の際や新薬・新技術の臨床治験等に行われる「説明と同意」、生と死に関わる倫理、医学研究のための動物実験、医系大学倫理委員会の設置とその活動等を紹介する。医療安全については、医療機関における医療安全体制の在り方、医療事故や医療関連感染症の原因、対応及び回避の方法、インシデントと医療過誤の違い、日常的に起こる可能性のある医療事故などを講義する。
研究指導科目	知識の専門性を高めるため、各研究分野に研究指導教員を配置し、質の高い研究指導を行うとともに、多様な研究手法を得ることができるよう、複数の教員から研究指導を受けることができることとし、医科学研究の幅を広げながら修士論文作成までの指導を行う。所属する学位プログラム毎に以下の研究指導科目を受講する。 ・展開医科学研究 ・臨床遺伝学（遺伝カウンセリング）研究 ・データサイエンス研究 ・Medical Science Research ・公衆衛生学・グローバルヘルス研究 ・クリニカル・トランスレーショナルサイエンス研究 ・ヘルスコミュニケーション研究 ・Global Health Research